

令和4年度 福井県立福井商業高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
<p>1 教育課程 学習支援 研修</p>	<p>①分かる授業を推進するため、公開授業週間を実施し、教材研究・授業研究を充実させ、支援の充実と研究・工夫を継続的に行う。</p> <p>②生徒の学力向上を図るため、小テストなどを実施し、また課題の取組状況を確認する。さらに成績不振の生徒に対しては、補習等で時間をかけて丁寧に支援する。</p> <p>③コロナ禍での対応として、タブレットを利用したオンライン配信を実施し、学習が遅れないように支援をした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教科で公開授業に取り組み、互いの授業改善に活用している。教員のアンケート結果から、「わかる授業」について「大変良い」「おおむね良い」を合わせて100%。また生徒の授業への理解度アンケート結果からも、「大変良い」「おおむね良い」を合わせて93.8%となっており、成果がうかがえる。</li> <li>・教職員の小テストの実施等は、「大変良い」「おおむね良い」を合わせて92.6%となっており、目標値を上回った。また生徒の課題への取り組みについても97.3%と、与えられた課題に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・通信環境の問題で、オンライン授業を相互間で安定して配信することができないことがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業を積極的に実施し、わかる授業を推進するために、さらに相互研鑽を積み、ICT機器を活用し支援の充実の向上を図る。</li> <li>・生徒の学力向上を図るため、各教科、学年会等で十分検討し、単元毎の小テストの実施や課題の提出、補習や個別指導をととして丁寧に指導する。また生徒の家庭学習の今以上の充実を呼びかける。</li> <li>・オンラインで配信した授業については、授業のダイジェストなどビデオで録画し、生徒がオンデマンドで学習できる体制作りを進めていきたい。</li> </ul>
<p>2 生徒支援</p>	<p>①全教員による容儀検査を各学期3回実施する。定期的な容儀検査だけでなく、徹底した事前・事後支援を行う。また、交通安全支援においては、事故防止の支援と同時に、自他の生命を尊重する精神を培う。情報モラル教育を通して、よりよい人間関係の構築をめざし、倫理観を養う。</p> <p>②生徒会活動を通して、自主自律の精神を養う。また、保護者との相互理解を深めながら部活動の活性化を図るとともに勉学との両立を目指し生徒の心身の向上を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身なり支援」「交通安全支援」「情報モラル支援」のすべてにおいて、目標値を大きく超えた良好な成果があがっている。</li> <li>・登下校時の自転車事故を減らすために、保護者・地域・警察と連携を深め、交通安全支援を徹底する必要がある。</li> <li>・交通事故時および不審者遭遇時の対応の仕方について、今後も周知徹底を図りたい。</li> <li>・情報モラル講演会をもSNS事業者講師を依頼し実施した。わかりやすく具体的な内容の話聞くことができた。また、保護者と生徒へのパンフレット配付などを通して情報機器やSNS利用に関する啓発活動を行ったところ、保護者の回答結果値が上昇し、保護者と生徒間の情報機器の利用に関する意識のずれの改善がみられた。</li> <li>・相談室と綿密に連携しながら、いじめ等の生徒間トラブルに対処した。</li> <li>・学校行事の教員と生徒の満足度は、ABの割合が目標値を大幅に超え、近年2年間と比較しても最も高い数値となった。コロナ禍の中で生徒と教員が一体となって感染予防に最大限の注意を払いつつ工夫を重ね、この状況でもやり通したとの達成感があった結果であろう。一方、保護者の方は、昨年と比べて4%ほど低い。昨年に引き続き、学校祭や文化部発表会で参観できなかったことが影響しているのかもしれない。感染を防ぎ、学校運営に支障を出さないことを最優先したため仕方の無いことであるが、オンラインでの視聴も可能にしていることを更に広報し、認知して利用していただくよう努力する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身なり支援」については、今後も朝の登校指導などで粘り強い支援を行っていく。</li> <li>・交通社会の一員としての意識をさらに高め、自他の生命を尊重するという理念を育てるための地道な支援を今後も継続して行う。来年度、事業者による交通安全講習会を5月に予定している。</li> <li>・来年度も、SNS事業者による情報モラル講演会を5月に予定している。保護者とも連携しながらSNS利用等の支援に継続して取り組む。</li> <li>・来年度も担任や相談室と連携しながら、問題の早期発見に努める。</li> <li>・学校行事については、コロナ感染症対策の緩和に伴い、感染予防を最優先しつつ、企画・運営を徐々に従来の形態に戻し、生徒、保護者が充実感を得られるよう取り組んでいきたい。LHや生徒会活動は、生徒の親睦を深める活動を増やし、自主的・主体的な活動の幅を広げたい。部活動においても、より活性化するように配慮していきたい。また、ホームページのさらなる充実やWEBによる配信など、保護者の方に、学校行事などの生徒活動をご理解いただく機会を増やす努力を続けていきたいと考える。</li> </ul>
<p>3 進路支援</p>	<p>①生徒の主体的な進路実現のために適切な支援を行う。</p> <p>②進路に関する情報を充実させ、生徒の実態に即して提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A+Bの回答結果は学年が上がるにしたがってその数値が上がっていった。</li> <li>・保護者の解答ではA+Bの数値が71.3%と、例年並みの数値にはなったが、1年生の保護者では、58.1%と、他学年より低くなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の生徒や保護者が本校の進学指導や進学情報について、その数値が低くでている。本校の進学指導について、3年間の見通しが持てるような文書等の支援が必要である。</li> </ul>
<p>4 美化支援 保健管理</p>	<p>①清掃の支援や監督を行い、生徒が環境美化に取り組む姿勢を育成する。また、ゴミ分別の支援を行い、保護者・生徒とともにリサイクル活動の推進を図る。</p> <p>②保健調査や定期健康診断の結果をもとに、適切な保健支援を行う。また、感染症予防等のプリントを教室に配布するなどの啓発活動により、保健知識の普及を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の清掃支援、保健支援とも目標値を大きく上回った。生徒・保護者についても目標値を上回り、校舎内外の環境美化、個人の健康管理を含む保健指導に関心が高いことが推察できる。</li> <li>・自己の健康管理意識の高い生徒が多く見られる。新型コロナウイルスをはじめとする感染症予防の支援を通して、さらなる保健知識の啓発に努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校環境の美化は健康を維持するためにも重要であるという生徒の意識を育てたい。</li> <li>・ゴミの分別を徹底するためのより効果的な対策を考え、各クラスに今後とも周知していきたい。</li> <li>・新型コロナウイルスをはじめ夏季の熱中症、冬季のインフルエンザ等の感染症予防について、来年度も啓発していきたい。</li> </ul>

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
5 保護者との連携 教育環境の整備	<p>①TA活動や学校行事に関する情報発信を行い、保護者と教職員の連携を深めるとともに、各種学校行事への保護者の積極的な参加を促す。</p> <p>②生徒の健全育成・進路実現のために、保護者の研修の機会を充実させるとともに、生徒の意見も積極的に採り上げ、教育環境の整備を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に対するアンケート項目「教職員と保護者との連携がとれているか」の回答は、「大変よい」「おおむねよい」を合わせて78.5%と目標数値を下回った。コロナ禍による行事活動の制限や保護者の参加についてご遠慮いただいたことが要因と考える。</li> <li>「教育環境の整備に努力しているか」という教職員への質問については「大変良い」「おおむね良い」を合わせて98%を超える結果が得られた。今後も、高水準を維持できるよう努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの影響で、学校行事など保護者が直接生徒の様子を見る機会が設定できない状況において、少しでも生徒や学校の様子を伝えられるような方法を模索したい。また、保護者との連絡は、プリントとメール配信システムの両方を用い、連絡を密にとれるように進める。</li> <li>教育環境を整備する為には、保護者、教職員、生徒の連携が不可欠である。学校行事等を通してより良い教育環境が構築できるよう努めたい。</li> </ul>
6 読書支援	<p>①新入生図書ガイダンス、全校一斉読書タイムなどを行い読書への関心を高める。また、カードを利用した読書マラソンにより継続して生徒が読書に親しむように努める。</p> <p>②図書委員会の活動を充実し、各種の取組や委員会だより・新着図書案内などの広報活動により図書館利用の拡充を図る。また新聞記事の紹介・掲示を通じて社会情勢に関心を持たせるよう啓発する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校一斉読書タイムは「非常に良い・おおむね良い」の割合が高く、生徒からよい評価を得ている。</li> <li>広報活動や読書啓発は、保護者から85.9%の高い理解を得ている一方、生徒からは、昨年、一昨年に比べ評価は上がっているものの、59.4%と6割にとどまっている。</li> <li>「図書館の利用状況」は年々数値が下がっており、本年度は40%にとどまっている。一昨年から、一人一台タブレットが支給されたことで、調べものために図書室を利用する生徒が減ったことも一因ではないかと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己実現・自己啓発・話題の本を充実させ、さらに読書啓発をすすめたい。</li> <li>図書委員会の活動である新着書籍や新聞記事の紹介などの地道な啓発活動を継続し、図書館利用者の増加につなげたい。</li> <li>新入生図書ガイダンスは生徒の読書活動に有益であることがわかる。来年度もガイダンスを実施し、生徒に読書の楽しさを伝え図書館利用を促したい。</li> </ul>
7 教育相談	<p>①相談室連絡会、学年会、はぐくみ委員会など全校協力体制のもと、問題の早期発見解決に努める。</p> <p>②生徒へのアンケート、生徒理解のための研修会などを通して、生徒を正しく理解できるよう努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会、はぐくみ委員会、専門家や外部機関と生徒理解の共通認識を図りながら、連携することによって、各事例に於いて支援体制を構築でき、各々の事例における効果的な支援につながった。</li> <li>通級、研修や個別相談に於いて、Q-Uやアセスなどデータと教員の観察にもとづく生徒理解に対する理解が広がった。</li> <li>LHなどでピアサポート活動に学年全体で取り組むことができ、生徒も教員も支え合う体制づくりの一步となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談室が関係教員、機関、保護者との円滑な連携をコーディネートできるように、日々専門力の向上に努める。</li> <li>生徒支援について、教職員の理解や協力が得られるような体制づくりに務める。</li> <li>教職員の生徒支援の課題を分析し、的確に参加しやすい研修を企画する。</li> <li>教職員の活用しやすい生徒支援の予防的プログラムの提供に努める。</li> </ul>
8 社会人への準備	<p>①学校生活の様々な場面を活用して、自分の生き方を真剣に考え、人生を主体的に生きる態度の育成に努める。</p> <p>②教育活動全体を通して、ビジネスマナーやコミュニケーション能力の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会情勢などに関心を持つ生徒が86.0%で、特に3年生は高く90.7%で昨年を上回っている。タブレットを活用し様々な情報を得ているようだが、情報収集力とともに多くの情報を論理的に取捨選択できる情報判断力をつけさせる必要がある。</li> <li>コロナ禍でも学校行事に対する取組については、意欲的・主体的に参加し97.0%の生徒が、学年を問わず行事等の活動に充実感を感じている。特別活動の支援と教科学習支援とのバランスを配慮することが必要である。</li> <li>清潔感のある身だしなみを心がけている生徒は99.0%とほとんど全員である。今後は容儀検査の必要のない学校を目指し、さらに積極的な生徒支援を展開していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスマナーやコミュニケーション能力の重要性については、「ようこそ先輩」等を通じて実際に実感させることが重要である。来年は、インターンシップの再開等で体験学習を充実させ、振り返りなどを一層充実させていきたい。</li> <li>生徒の主体的な学びを充実させていくために、社会的な問題やニュースに興味・関心を持つよう、ロングホームや主権者教育の充実を図り向上させていきたい。</li> <li>今年度の生徒会活動では、コロナ禍における学校祭実施に向けて全体参加に関する企画運営を精力的に行った。今後は学校行事など様々な場面を活用し、生徒の主体的な活動を取り入れ、さらなる充実を図りたい。</li> </ul>
業務改善	<p>①ノー残業デーを導入し、会議・行事の精査、簡素化、削減を図る。</p> <p>②本校「部活動に係る活動方針」に則り、効果的、効率的、合理的な部活動を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノー残業デーを在校時間管理表に計画・設定を毎月必ず行っている教職員は98.4%で、学校業務改善に取り組んでいる。</li> <li>部活動「年間計画」を作成している教職員は93.4%で、効果的、効率的、合理的な持続可能な運営を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度以降も働き方改革を推進し、学校業務改善及び勤務時間管理を積極的に進めたい。</li> <li>本校「部活動に係る活動方針」に則り、効果的、効率的、合理的な練習方法を取り入れ、持続可能な運営を目指したい。</li> </ul>

